

ゼロエミッションフォーラム IN 宮古島

—エコアイランド宮古島をめざして—

パネルディスカッション

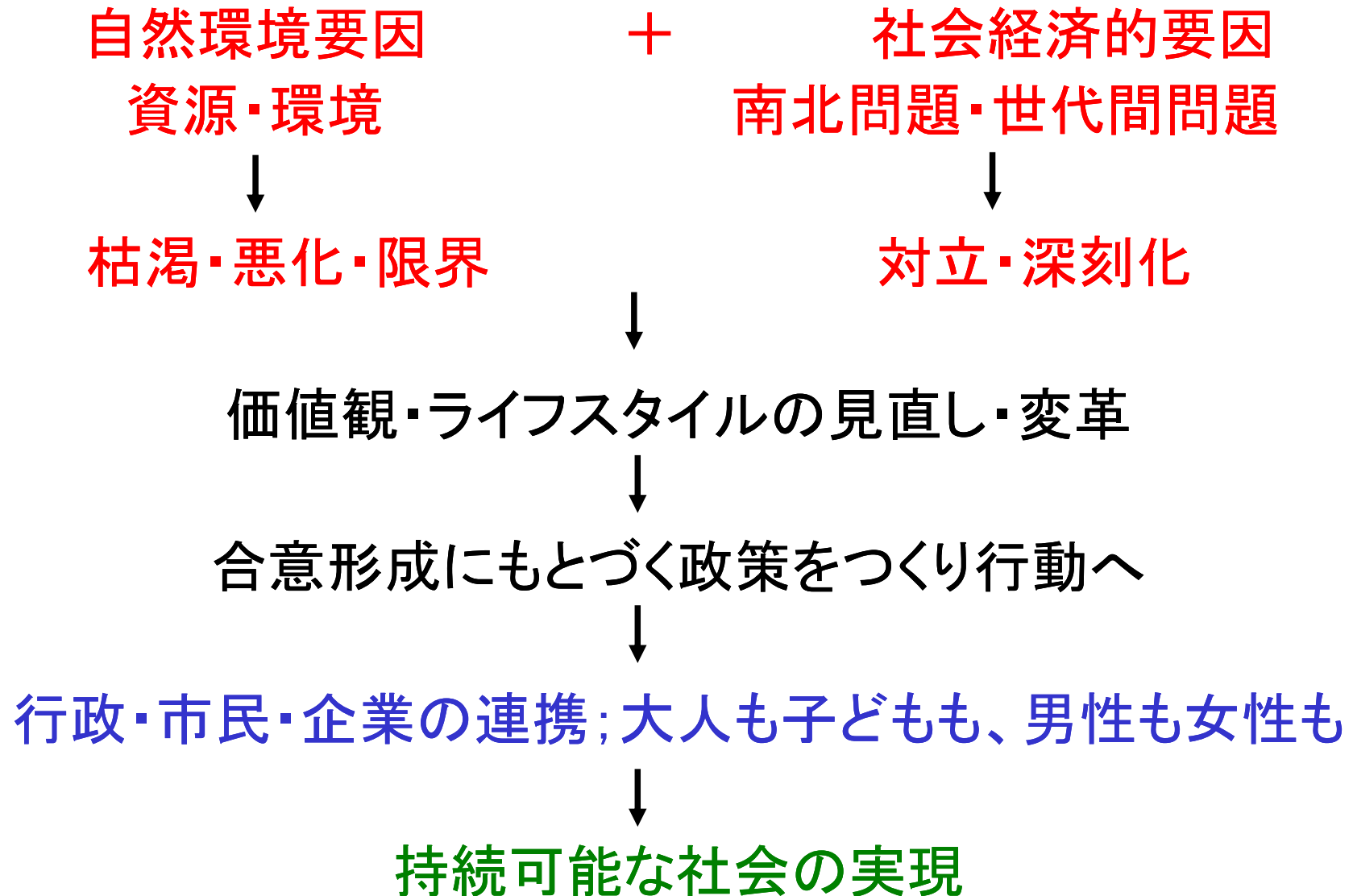
2008. 6. 29.

国連大学ZEF

坂本憲一

1992年国連地球サミット

— 現状認識・価値観の見直し・行動の提唱 —



ゼロエミッション

国連大学は

アジェンダ21の目指す持続可能な発展に貢献するため
具体的・実践的なプロジェクトとして
1994年にゼロエミッションを提唱



基本的な考え

自然の社会は、すべての生物、植物が共生していてゴミはない

最初の行動

人の社会・物づくりの過程でゴミをゼロにできる = ゼロエミッション

次のステップ

物づくりも消費スタイルも考え直し、みどりの地球を次世代へ引き渡たそう

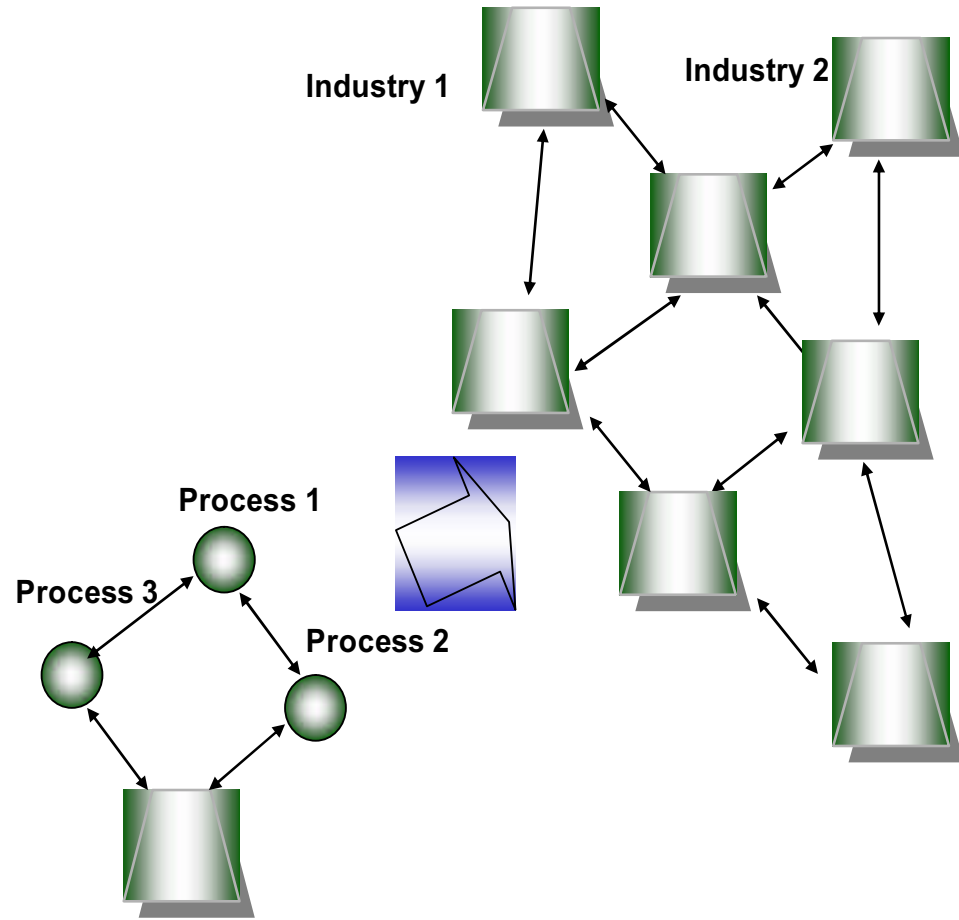


ゼロエミッションの普及

行政・市民・産業界等のすべての分野で受けいれられ
また、日本から世界各国にもひろがってきている

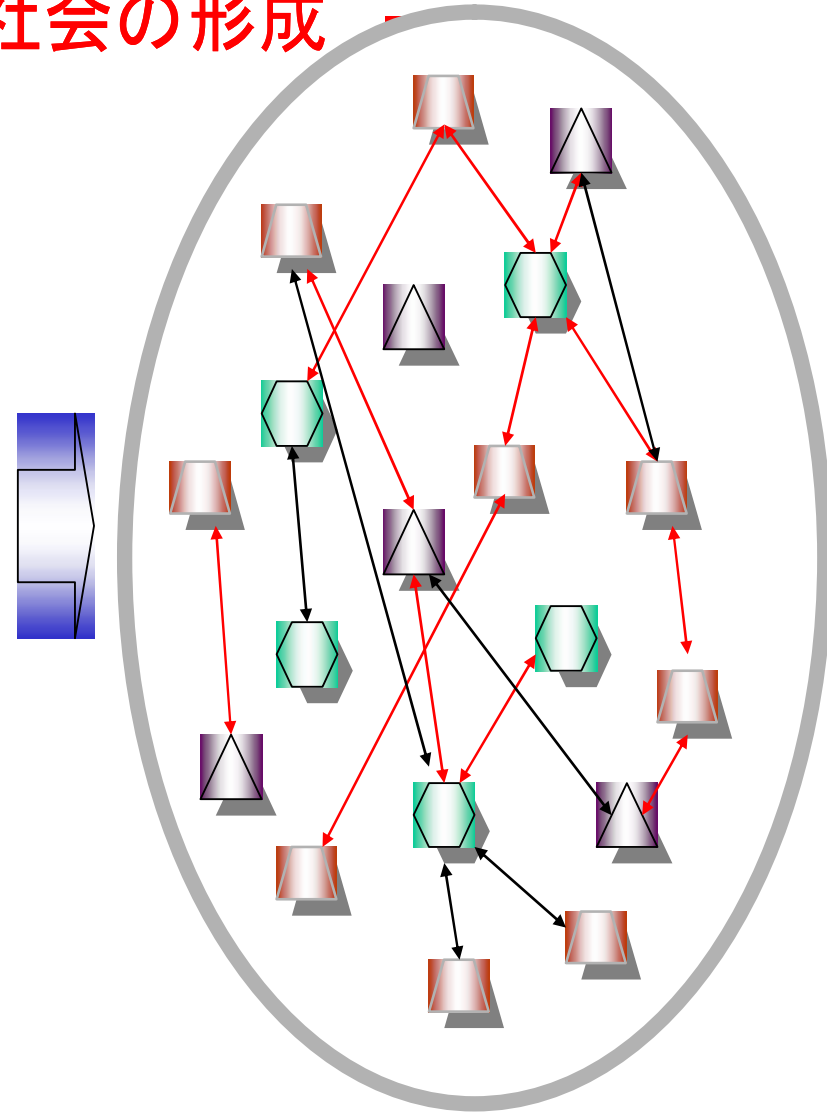
ゼロエミッションの拡がり

一 持続可能な循環型社会の形成



少数の企業群から

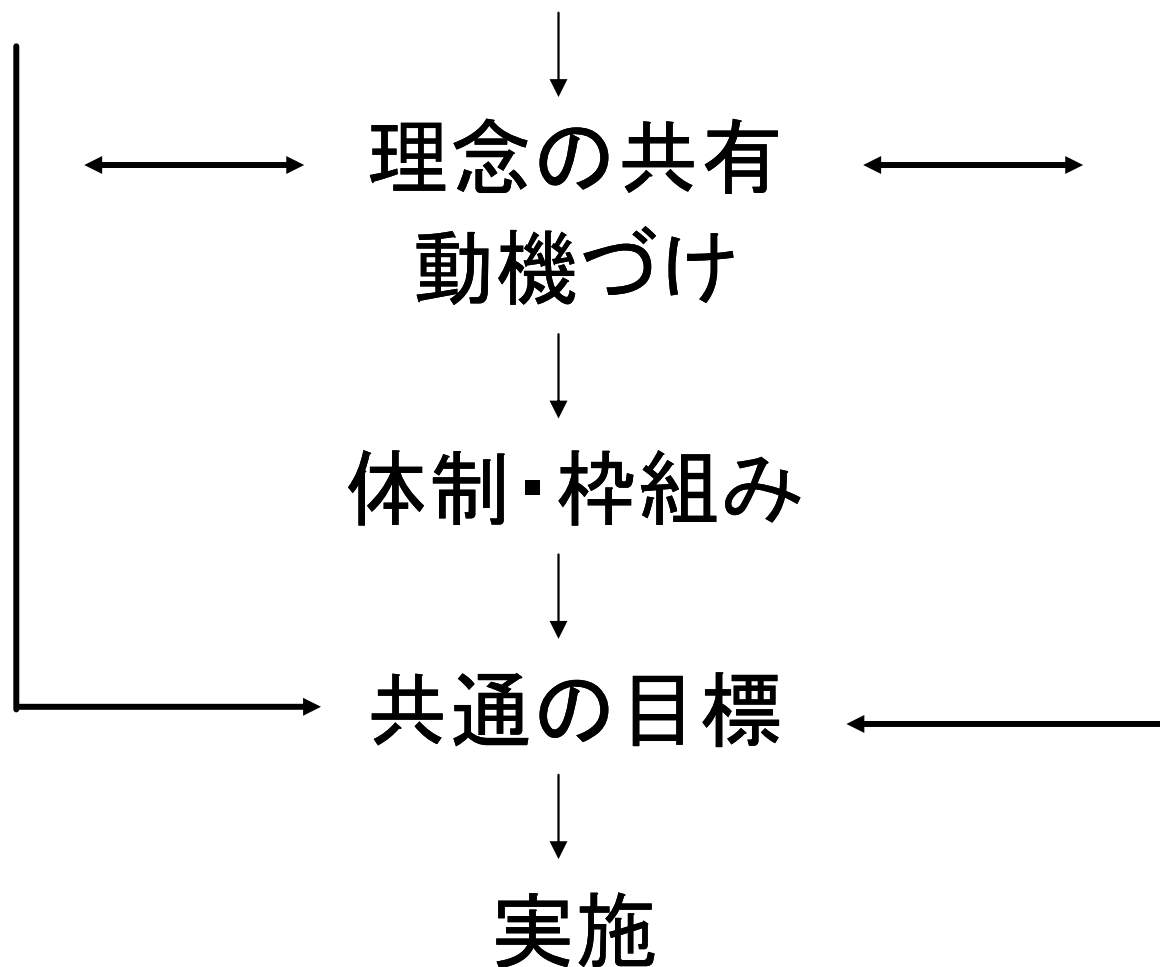
サイト・地域での
企業群へ



地域・社会での
ゼロエミッションへ拡大

持続可能な豊かな社会を創るために — 行政・市民・企業の役割と協働 —

市民 行政(国・自治体) 企業



循環型社会形成のための地域パートナーの役割

— 自然を守り、省エネ・資源循環の社会をめざして —

- 1 行政(自治体)の立場から = 政策形成と行動の推進者
 - ・理念構築と行動計画
 - ・地域社会での合意形成
 - ・管理と行動支援を超えて自らが行動
- 2 産業界の立場から = 環境調和経済システムへの経営
 - ・環境経営の意思決定
 - ・省エネ・3Rへの取り組み
 - ・社会との共生
- 3 市民の立場から = ライフスタイルの転換と行動
 - ・意識改革 = みどりの地球を次世代へ引き渡そう
 - ・日常生活 = 自然をまもり、省エネ・省資源活動をする
 - ・地域の行動 = 参加から参画へ、

自治体の役割

1 基本的責務

地域における理念形成と行動のプロモーター

2 理念・構想

①広域の豊かな成長 — 環境と調和する地域づくり

②地域の強さと独自性を活かし全体として調和

③構想・計画が持続的である

3 具体的課題

①各パートナーとの連携と強調、地域経済との融合・活性化

②現在課題から将来展望へ 当面の資源循環・ゴミゼロから
ライフスタイル変革までを構想

名古屋市ゴミ削減

名古屋市民と名古屋市の協働成果

藤前干潟 : 99. 1. (西1区)埋立事業中止

行動 : 99. 2. ゴミ非常事態宣言

家庭:びん・缶収集の全市拡大、集団収集助成強化

- 紙・プラ製容器包装の資源収集、指定袋制導入 など

事業所:古紙、びん、缶、ペット容器、発泡スチの搬入禁止

- 産廃の前面受入れ中止、全量有料化、指定袋制導入

成果と評価

ゴミ量(年度)2000:102万t → 2002:75万t 3/4に
1人あたり/日 907g 大都市トップレベル

220万市民と名古屋市:環境大臣賞と自治体グランプリ受賞

今後の課題

現状 : ゴミ量:減少基調 最大より約30%減

抜本的改革 : ライフスタイルの実現にかかる

飯田市の構想

人も自然も美しく、輝くまち飯田 — 環境文化都市

環 境 調 和 型 社 会 の 実 現

天竜峡エコバレープロジェクト

地
域
産
業
の
振
興

●新しい社会システム

●全員参加型のオープンな
まちづくり

●天竜川治水対策事業

広域連携化型の地域づくり

環 境

産 業 づ くり

都 市 づ くり

人 づ くり

身近な自然環境や生活環境の破壊

大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会経済活動

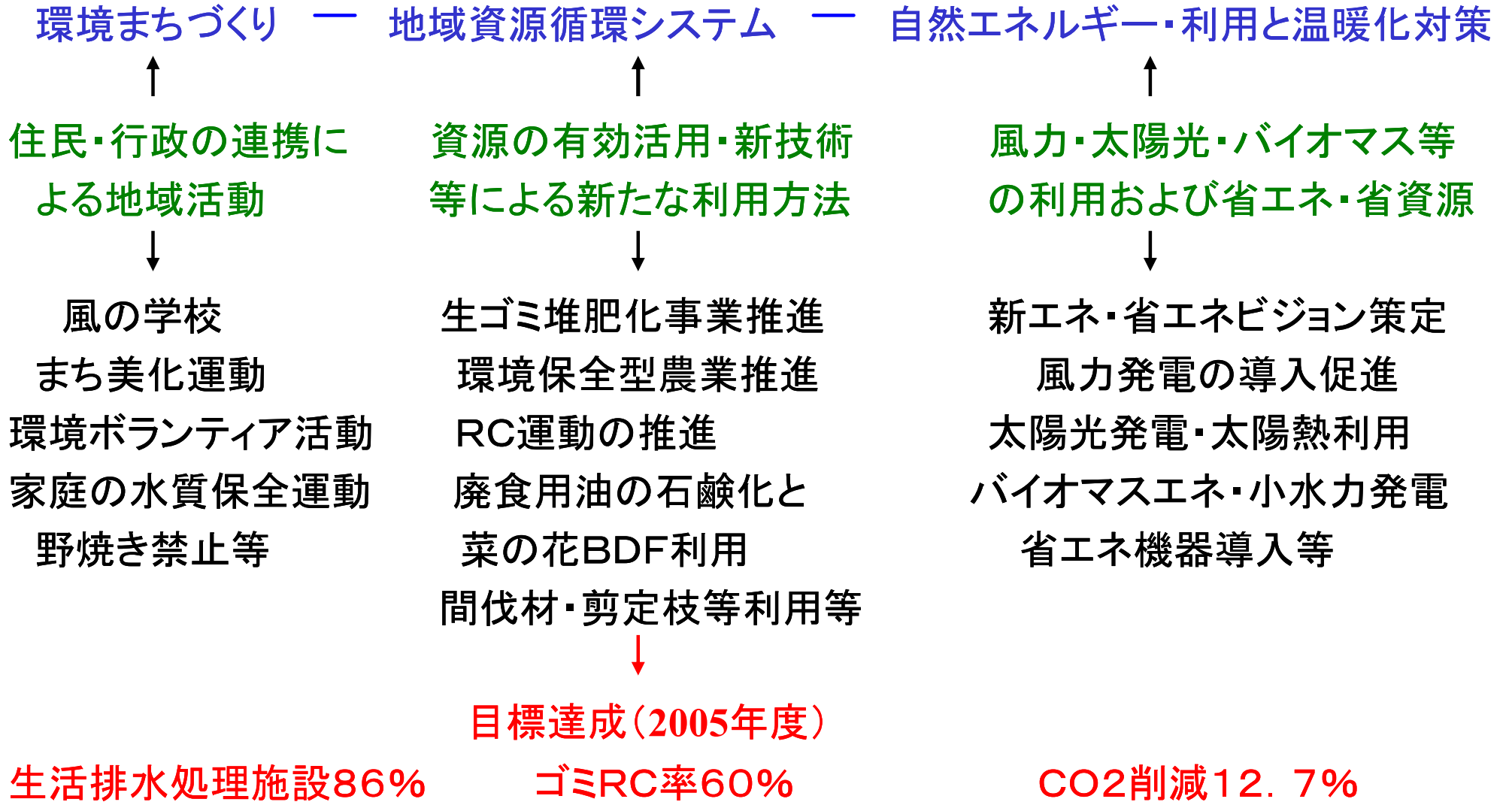
個性的な都市づくりに向けて発想の独自性の模索

経済の成熟化・グローバル化にともなう産業構造の変化

「ものの豊かさ」から「心の豊かさ」への住民意識の変化

山形県庄内町(旧立川町)

— 農山村型ゼロエミッションの推進 —



エコアイランド宮古島

行政・企業・市民の協働で、エコ結いの島をめざして

2 環境の島協力
宣言

4 体験(環境)
教育

循環型社会の構築

環境と地下水保全推進

産業観光の推進

1 エコツアー提供

3 エコ施設整備と
誘致

5 環境産業
づくり

6 動植物保護

7 環境保全

8 地下水の保全



エコアイランド宮古島実現の推進力

こころ

1. 結いの輪

地域でみんなが一緒に考え、語り、共感し、
支えあい、未来への希望と夢をえがく

2. 環境教育

家庭で親と子ども、社会で大人も子ども、職場
の仲間で話し合い、理解しあい、行動する

パート2

環境学習・教育・行動の重要性 ～世界にひろがる～

(1) 地球の秘密

この感動的な作品は、坪田愛華さんの遺作である

1991年秋に6年生の愛華さんは、
学校担任から与えられた課題を2ヶ月かけて自分で漫画で作りあげた

その数時間後、12月26日未明、突然の脳内出血で倒れ、
翌日12年の短い生涯をおえた

この遺作は、両親により50部印刷され、学校や同級生に配布された
その後多くの人・国に評価され、現在11ヶ国で出版され
世界の子どもたちに大きい影響をあたえている
また、国連環境計画(UNEP)も、UNEPグローバル500賞として
1993年に表彰した

大人も子どもから学ぼう

(2) キッズISOプログラム 国際芸術協力機構

子どもが環境を保全する力の原動力
— 河邊教授の基本の考え —

内容 : ISO14001の子ども版

活動主体 : 子ども

ISOが国際標準として2003年認証

日本発の初めての国際認証として
世界各国で普及が始まる

(3) アジア・太平洋地域環境教育セミナー推進 — ユネスコ日本・文部科学省・東京学芸大学 —

各国出席者＝「おしんの時代」を高く評価

現在の文明が発達し創造への意欲と喜びが希薄になりつつある社会の中で
両親・兄弟らの愛情を中心とした貧しいが暖かい家庭で
皆が支えあって生きていた

Dr. Pande＝インドの著名な環境NPO代表

今もインド東北部農山村地帯ではこの美風が活きている
学校＝先生と子ども、 家庭＝親と子ども、 社会＝大人と子ども
それぞれの場での心の通い合いと会話



環境学習 = 大人と子どもの共通の会話が成立し
暖かい家庭と思いやりのある社会形成の原動力となる

(4) スポーツを通して環境活動 ーグローバル・スポーツ・アライアンス(GSA)ー

社会を変革する力 = 人数 × 意識 × 行動

人数 = スポーツが好きな人 ・ 世界で10億人

意識 = スポーツができる環境・きれいな空気・水 → 100%の人

行動する人 = 10%



スポーツを通して変革する力(人数) = 1億人



GSAの考え = IOCも、UNEPも賛同

北京オリンピックでは、中国政府も取り入れる

エコアイランド宮古島

行政・企業・市民の協働で、エコ結いの島をめざして

2 環境の島協力
宣言

4 体験(環境)
教育

循環型社会の構築

環境と地下水保全推進

産業観光の推進

1 エコツアー提供

3 エコ施設整備と
誘致

5 環境産業
づくり

6 動植物保護

7 環境保全

8 地下水の保全



エコアイランド宮古島宣言に基づく行動と成果の評価

PDCA あるいは Plan-Do-See の重要性

事例

飯田市(エコタウン計画と行動の10年)

りんご並木

人形劇カーニバル

自治3原則条例:市民主体・情報共有・参加協働
ISO14001自己適合性検証 → 有効性監査
環境文化都市宣言(2007・3) 第5次基本構想計画(2007~)
自治体首都コンテスト:人口別1位(2007年度)
地域ぐるみ環境ISO研究会 — ぐるみ通信

社会との連携(市民、企業、学校) 子ども・青年の啓発と協働
こども環境会議 高等学校研究会(下伊那農高、長姫高、飯田工高等)
生活と環境まつり ノーマイカー ライトダウン マイバッグ バイオサミット
環境協議会 いいむす21事業所 太陽光市民共同発電・おひさま発電所

大学等の研究活動への協力・立命館APU、JICA研修等
独ウルム市との交流 比レガスピ市活動支援(JICA草の根活動支援)

社会各パートナーの連携と協働

自治体・国

研究機関・小中高校

持続可能なエコアイランド・宮古島の実現

産業・経済界

市民・青年・こども

